

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器病医学会

本会は神奈川県医学会の分科会の一つである。昭和34年神奈川県消化器病研究会として発足。その後名称を改めて県下の消化器病学の発展に貢献しつつ現在に至っている。

春季の研究会、秋季の総会を中心に肝胆膵疾患研究会を加え定期的な活動を展開している。県下にある大学病院をはじめ公私立病院と地域医療とを結ぶ実践的な活動を行い、県下の消化器診療に果たす役割は大きい。

当協会では51年から事務局を担当し、事務処理方法の改善、財政の確保に積極的に取り組むなど会の発展に努めている。

現在会員は個人会員493名、施設会員147施設と役員会員184名である。平成14年度の活動は次の通り。

第47回研究会

日 時 14年6月22日(土) 13:00~
会 場 大和市保健福祉センター
内 容 一般演題21題

特別講演「胆汁うっ滞—診断・病態・治療—の現状と今後の展開」

筑波大学消化器内科学 田中 直見教授

参加者 109名

第35回総会

日 時 14年11月9日(土) 13:00~
会 場 横浜市民文化会館(関内ホール)
内 容 一般演題27題

特別講演「再生医療における肝細胞療法の現況」

旭川医科大学第2外科 葛西 眞一教授

参加者 150名

役 員

(敬称略・50音順)

会 長	青木 誠孝	神奈川県予防医学協会
副会長	小泉 博義	藤沢湘南台病院
〃	南 康平	丹羽病院
幹 事	池 秀之	横浜市中センター病院
〃	上野 文昭	大船中央病院内科
〃	遠藤 徹	聖マリアンナ医科大学消化器内科
〃	長田 信	大迫内科クリニック
〃	勝又 伴栄	北里大学東病院内科
〃	酒井 滋	帝京大学溝口病院外科
〃	渋谷 明隆	北里大学東病院消化器内科
〃	島田 英雄	東海大外科
〃	鈴木 亮一	横浜市立港湾病院内科
〃	高橋 俊毅	国立病院横浜医療センター
〃	田中 大	横浜市大センター病院
〃	玉井 拙夫	神奈川県立がんセンター
〃	田村 聡	田村医院
〃	多羅尾和郎	神奈川県立がんセンター
〃	峯 徹哉	東海大消化器内科
〃	与芝 真	昭和大藤が丘病院内科
監 事	岡部 伸彌	岡部医院
〃	田中 昭平	横須賀市立市民病院

(事務局・青木誠孝)

神奈川県消化器集団検診機関
一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会(現:日本消化器集団検診学会)関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位に「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満21年余を経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連携強調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がんの検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第53回協議会(平成14年7月23日)
- (2) 第54回協議会(平成14年12月10日)

2. 幹事会の開催

- (1) 第65回幹事会(平成14年7月2日)
- (2) 第66回幹事会(平成14年7月23日)
- (3) 第67回幹事会(平成14年11月19日)

3. 研修会

日 時: 平成14年12月10日
テーマ: 「健康増進法とがん検診」
講師 東海大学医学部
教授 岡崎 勲先生

神奈川県消化器集団検診機関
一次検診連絡協議会名簿

(敬称略・順不同)

横浜市立市民病院がん検診センター	所 長	今村 清子
川崎市がん検診センター	所 長	大瀧 隆子
財逗葉地域医療センター	施設長	田中 昭平
(医)松英会	理事長	寺門 運雄
財京浜保健衛生協会	理事長	矢作 淳
(医)倉田病院健康管理室	院 長	倉田 康久
神奈川県厚生農業協同組合連合会	理事長	門倉 光重
財神奈川県労働衛生福祉協会	会 長	角田 昭夫
財結核予防会神奈川県支部	専務理事	吉田 英男
財神奈川県予防医学協会	理事長	土屋 尚
厚木市立病院	病院長	岡部 武史
(医)社団相和会産業健診事業部	理事長	土屋 章
(医)藤順会藤沢総合健診センター	理事長	石井 敏之

相談機関

神奈川県福祉部高齢者保健福祉課	課 長	小野田正幸
神奈川県医師会	理 事	石井 出
神奈川県医師会	理 事	内田 健夫
日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会	技師長	村西 久幸
日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会	常任世話人	坪井 晟

(平成15年7月1日現在)
(事務局・熊沢 英明)

神奈川消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師を養成し、その技術の向上を図るとともに、関係者相互の親睦を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、5月に横浜市立港湾病院の鈴木亮一内科部長を世話人として、下記のとうり行われた。午前中のセミナーでは、「高レベル消毒薬の使用経験」が2施設から報告され、メーカーを交えて問題点や注意点について質疑が行われた。特別講演では横浜市立大学病院の粉川敦史医師による「早期EMRにおけるITナイフ法の有用性」の講演があり、またパネルディスカッションでは「オリエンテーションはどうしているの？」が行われた。

特別講演は、最新の手技をビデオで見ることが出来て時を忘れて講演に聞き入っていた。パネルディスカッションはクリニカルパス・ビデオ・説明書を使用し、患者に正しくわかりやすい説明ができるよう各施設とも工夫しており、インフォームドコンセントに重きを置いて患者の不安除去につとめていることが伺われた。

今後とも、専門知識の獲得や正しい情報を提供できる場として研究会を発展させていきたい。

最近の活動状況

第23回神奈川消化器内視鏡技師研究会

日 時 平成15年5月18日(日)

会 場 横浜市健康福祉センター

技師世話人 横浜市立港湾病院

内視鏡室 谷合 幸乃

内 容

セミナー「高レベル消毒薬の使用経験」

一般演題 5題

特別講演 「早期EMRにおけるITナイフ法の有用性」

パネルディスカッション

「オリエンテーションはどうしているの？」

入場者 300名

顧問

(五十音順)

青木 誠孝 神奈川県予防医学協会
小泉 博義 藤沢湘南台病院
比企 能樹 北里大学病院名誉教授
藤田 力也 昭和大学藤が丘病院名誉教授
三輪 剛 東海大学医学部病院名誉教授
山川 達郎 帝京大学溝口病院外科

役員

青地 広美 横浜市立大学
片野早江子 聖マリアンナ医科大学病院
上條のり子 昭和大学藤が丘病院
木下千万子 湘野辺病院
木下美智子 横須賀共済病院
佐藤 和夫 神奈川県労働福祉協会
佐伯 美奈 聖マリアンナ医科大学横浜西部病院
菅原ゆかり 松島クリニック
瀬戸 道雄 青木医院
谷合 幸乃 横浜市立港湾病院
納所けい子 神奈川県予防医学協会
花木由香里 東海大学病院
藤井あずさ 丹羽病院
藤田 賢一 帝京大学溝口病院
藤森 弘樹 昭和大学藤が丘病院
松橋 妙子 国際親善病院
三浦 美保 北里大学東病院

(事務局 納所けい子)

横浜市乳がん検診協議会

横浜市の乳がん集団検診は、和55年11月より開始された。

本会は検診体制の整備、改善などの精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営をはかるため、専門的立場から調査、審議を行う事を目的として昭和56年7月18日に設立された。

当協会は発足当初より、事務局を引き受けている。14年度の活動は以下の通り。

幹事会(14年10月2日)

(1)13年度検診実施状況報告

(2)マンモグラフィ併用乳がん検診について

(3)13年度報告書作成担当機関について

協議会(15年4月25日)

(1)13、14年度検診実施状況報告

(2)新年度計画について

(3)横浜市マンモグラフィ検診実施状況報告

(4)学会報告(横浜市立大学第一外科 稲葉将陽先生)

その他

『平成12年度横浜市乳癌検診報告書』発刊

平成14年日本乳癌検診学会(鹿児島)で発表

横浜市乳がん検診協議会名簿

会長	土屋 周二	横浜市立大学医学部名誉教授
幹事	真田 裕	昭和大学藤が丘病院外科助教授
〃	高梨 吉則	横浜市立大学医学部外科学第一講座教授
〃	嶋田 紘	横浜市立大学医学部外科学第二講座教授
〃	福田 護	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科教授
〃	須田 嵩	済生会横浜市南部病院副院長
〃	渡邊 哲	横浜市衛生局保健部長
〃	田村 暢男	神奈川県予防医学協会理事・専門委員
委員	利野 靖	横浜市立大学医学部外科学第一講座講師
〃	石川 孝	横浜市立大学医学部外科学第二講座講師
〃	渡辺 弘	聖マリアンナ医科大学名誉教授
〃	蔵並 勝	北里大学病院外科講師
〃	鬼頭 文彦	横浜市民病院外科部長
〃	山本 裕司	横浜市立港湾病院副院長
〃	清水 哲	横浜南共済病院外科部長
〃	佐藤 博文	横浜栄共済病院外科部長
〃	大井田尚継	社会保険横浜中央病院外科部長
〃	高橋 利通	横浜掖済会病院外科部長
〃	竹村 正伸	横浜勤労者福祉協会汐田総合病院外科部長
〃	石川 廣記	神奈川県警友会けいゆう病院外科部長
〃	上妻 達也	横浜船員保険病院外科部長
〃	山中 研	横浜赤十字病院外科部長
〃	西山 潔	国立病院横浜医療センター診療部長
〃	田村 功	藤沢湘南台病院外科
〃	桜井 修	横浜旭中央病院外科
〃	修理 淳	横浜市衛生局保健政策課事業推進担当課長
〃	土屋 尚	神奈川県予防医学協会理事長

(事務局・栗原 博)

横浜市マンモグラフィ総合判定委員会

厚生労働省が平成12年に示したがん検診の指針(乳癌検診について50歳以上の隔年を対象に視触診に乳房エックス線検査(マンモグラフィ検診)を併用する)に則り、横浜市では13年10月よりマンモグラフィ装置のある市内の45医療機関(平成15年8月現在51機関)を対象にマンモグラフィ併用検診を開始した。

対象者は50歳以上の偶数年齢者とし、上記医療機関は視触診とマンモグラフィを同時実施とし、装置のない医療機関と集団検診は視触診のみを実施し、装置のある医療機関でのマンモグラフィ撮影を行うというシステムである。

本システムの特徴は、マンモグラフィ実施医療機関でフィルムの1次読影を行い、さらに読影の精度管理のために総合判定委員会において、学会認定医師による2重読影による総合判定を実施し受診者への結果通知を行うこととなっており、その運営について事務局を当協会が担当している。

毎週1回判定委員会が開催され、学会認定医師による判定が行われているが、判定会には撮影に従事する放射線技師も参加し、医師、技師による合同判定会として運営されている。更に検診に参加している医療機関の医師、技師にも公開され、検診レベルの向上に努めている。

判定会開催(14年4月～15年3月)46回

判定委員会委員(下記参照)

平成15年度

(平成15年8月1日現在)

横浜市乳がんマンモグラフィ総合判定委員会判定委員名簿

委員長	福田 護	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科
副委員長	八十島唯一	八十島クリニック
	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学放射線科
	小田切邦雄	青葉台クリニック
	奥村 輝	南山田クリニック
	土井 卓子	国立病院横浜医療センター
	清水 哲	横浜南共済病院外科
	郷地 英二	聖隷横浜病院外科
	松本 純一	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院放射線科
	山内栄五郎	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院放射線科
	久保内光一	よこはま乳腺と胃腸の病院外科
	有田 英二	神奈川県予防医学協会
	櫻井 修	横浜旭中央総合病院外科
	緒方 春樹	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科
	石山 暁	横浜市がん検診センター
	石川 孝	横浜市立大学医学部付属市民総合医療センター外科
	岡本 譲二	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科

(事務局・栗原 博)

乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始された。53年度以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに協会が委託を受け実施した。

その後昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、当協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会(現会長＝福田護・聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授)」が新たに発足し、検診の実務が遂行されている。

同連絡会は「県成人病管理指導協議会乳がん部会(部会長＝福田護・同上、事務局＝県福祉部)」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置されている。

乳がん集団検診協力医療機関連絡会

(敬称略・順不同・平成15年7月1日現在)

会長 福田 護 聖マリアンナ医科大学病院乳腺・内分泌外科教授

代表医師名 医療機関名

利野 靖	横浜市立大学医学部(第一外科)
石川 孝	横浜市立大学医学部(第二外科)
上妻 達也	横浜船員保険病院
山中 研	横浜赤十字病院
真田 裕	昭和大学藤が丘病院
清水 哲	横浜南共済病院
家所 良夫	日本医科大学付属第二病院
緒方 晴樹	聖マリアンナ医科大学病院
細井 英雄	横須賀共済病院
小林 俊介	藤沢市民病院
田村 功	藤沢湘南台病院
小林 一博	茅ヶ崎市立病院
蔵並 勝	北里大学病院
秋山 憲義	国立相模原病院
片山 清文	平塚共済病院
河原 寛人	杏雲堂平塚病院
福田 淳	小田原市立病院
杉田 輝地	山近記念総合病院
原 俊介	西湘病院
鈴木 弘治	秦野赤十字病院
田島 知郎	東海大学病院
小澤 幸弘	三浦市立病院
竹下 利夫	大和市立病院
中崎 久雄	東海大学大磯病院
堀口 一弘	神奈川県立足柄上病院

(事務局・熊沢英明)

神奈川乳房画像研究会

神奈川乳房画像研究会は、平成8年12月に発足してから早や6年を経過した。研究会を開催するごとに各地方(群馬、千葉、茨城、静岡、埼玉、東京など)より参加を頂き毎回170名以上の出席を得ている。又、県下の外科、放射線科、産婦人科の医師もテーマによりご出席頂き、幹事一同会を盛り上げるように努力しています。

尚、朝日新聞にも掲載され市民の方々にもご出席頂くケースもあり、今後益々乳癌を早期発見する画像診断の重要性を醸成し、色々なアングルから今後も展開し、知識を深め技術向上のため努力する所存です。

平成14年度の研究会を4回開催した。以下、講演内容を列記いたします。

神奈川乳房画像研究会講演・講義内容
《第12回研究会》 平成14年6月8日
横浜情報文化センター6階情文ホール
参加者163名

1. 乳がんの治療とリハビリ
聖マリアンナ医科大学 乳腺内分泌科 緒方 晴樹
2. マンモグラフィ診断学 ～石灰化病変～
東京通信病院 放射線科 島田菜穂子
3. 自動現像機の品質管理 その1
コニカ株式会社 画像情報グループ 松村 茂樹

《第13回研究会》 平成14年9月28日
横浜情報文化センター6階情文ホール
参加者177名

1. シリーズ診断学～腫瘍・その他の所見～
国立名古屋病院 放射線科 遠藤登喜子
2. 知っておきたい病理学の基礎
癌研究会癌研究所 乳腺病理部 堀井 理絵
3. 自動現像機の品質管理 その2 ～ガイドラインに沿った濃度管理～
コダック株式会社 画像メディア技術サポートグループ 安川 麻子

《第14回研究会》 平成14年12月14日
横浜情報文化センター6階情文ホール
参加者187名

1. 「各専門の立場から乳癌症例を検討する」
・撮影技術部門
埼玉県立がんセンター 放射線診断部 石栗 一男
・画像診断部門
聖マリアンナ医科大学病院 放射線科 印牧 義英
・外科手術部門
聖マリアンナ医科大学病院 乳腺内分泌外科 川本 久紀
・病理診断部門
癌研究会癌研究所 乳腺病理部 堀井 理絵
司会進行 聖マリアンナ医科大学東横病院 放射線科 栗原 宣子

2. 自動現像機の品質管理 その3
富士フィルム株式会社 営業技術部 八木 実

《第15回研究会》 平成15年3月29日
横浜情報文化センター6階情文ホール
参加者177名

1. フィルムコンテスト～自己評価を含めて～
司会進行 聖マリアンナ医科大学東横病院 放射線科 栗原 宣子
愛知がんセンター病院 放射線診断部 堀田 勝平
2. 読影上に支障をきたさないMMG・X線写真とは
聖マリアンナ医科大学病院 放射線科 印牧 義英
3. 最近話題となっているPET活用による乳がん検診
横浜市立大学医学部放射線医学講座教授 井上登美夫
(事務局・萩原 明)

神奈川県健康管理機関協議会

昭和56年に神奈川労働基準局労働衛生課の指導の下で、県内で労働衛生に携わっている機関のうち、中小企業労働者健康増進事業助成制度の名簿登録機関18機関が参加して自主的に発足した。

平成14年度の会員機関は18機関で、企業の健康管理を側面から支援するために、より質の高いサービスを提供すると共に、労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的に運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、年2回継続的に開催してきた。

平成14年度活動状況

第1回協議会(平成14年7月18日)

- 議題1 ①14年度労働衛生行政の重点について
神奈川労働局 蒲谷竹美労働衛生課長
②神奈川労働局からの連絡事項
神奈川労働局 平野茂樹主任衛生専門官
- 2 講演『産業医が企業外健康管理機関に求めるメンタルヘルス対策と要望』
講師 富士通(株)健康推進担当部長 三宅 仁先生
- 3 各機関からの情報交換

第2回協議会(平成15年2月19日)

- 議題1 神奈川労働局からの連絡事項
神奈川労働局 蒲谷竹美労働衛生課長
神奈川労働局 平野茂樹主任衛生専門官
- 2 講演『新しい結核対策と産業保健』
講師 日本医師会常任理事 雪下 國雄先生
- 3 各機関からの情報交換

機関名 ▲代表幹事 ●幹事

- ▲(財)神奈川県予防医学協会
- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (財)ヘルス・サイエンス・センター
(財)京浜保健衛生協会
- (財)結核予防会 神奈川県支部
(財)全日本労働福祉協会
(財)日本予防医学協会 東日本支部
- (財)労働医学協会 川崎南クリニック
(財)労働衛生協会
労働福祉事業団 関東労災病院健康管理センター
(財)労働科学研究所
(医)社団 日健会 日健クリニック
(医)社団 相和会
(社)衛生文化協会 城西病院
労働福祉事業団 横浜労災病院
海外勤務健康管理センター
(財)逗葉地域医療センター
神奈川県厚生農業協同組合連合会
健康管理センター
(財)産業保険研究財団 神奈川診療所

(事務局・根本 克幸)

神奈川健康保持増進サービス 機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、県下で活動している中央労働災害防止協会認定の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川労働基準局の指導の下、平成2年12月に発足し自主的に運営されている。

厚生労働省では、中小企業における健康保持・増進を目指した「中小規模事業場健康づくり事業＝ステップアッププラン」を導入した。

本事業は、中央労働災害防止協会に名簿登載されている「労働者健康保持増進サービス機関・指導機関」がその実行を担い、事業に要する費用は原則として全額国が負担する制度である。今後本事業がサービス機関・指導機関の果たすべき役割の指針となるものである。

しかしながら、長引く経済不況は、企業における健康管理計画に影響を及ぼしつつあり、その結果として健康づくり事業もここ数年停滞傾向にあるのが実態である。

このような状況に鑑み、神奈川労働局のご指導・中央労働災害防止協会との連携により、健康保持・増進対策を活性化するとともに企業に真に望まれる事業の展開が必要である。

急速な高齢化が進むわが国における、働く人の健康づくりを進めることは、①健康で仕事に対する意欲を持った健全な労働力の確保であり、従業員にその能力を十分に発揮してもらう。②社会経済面からも職場の活性化に結び付け、医療費の抑制を目指す観点から重要である。

＜平成14年度活動状況＞

本年度は、健康づくり事業の普及拡大と働く人の健康づくり神奈川大会への協賛が活動の中心となった。「2003働く人の健康づくり神奈川大会」
(平成14年2月14日)

＜平成14年度加入機関＞

(医社)相和会 新横浜ソーワクリニック
(医社)相和会 淵野辺総合病院
(財)神奈川県労働衛生福祉協会
(財)京浜保健衛生協会
(社福)日本医療伝道会 衣笠病院
(医社)善仁会横浜東口ヘルスチェッククリニック
(医財)報徳会 西湘病院
(財)勤労者リフレッシュ事業振興財団
勤労者リフレッシュセンター(スパウザ小田原)
(医社)こうかん会
(財)神奈川県予防医学協会

(事務局・北見 護)

肺疾患検討会

若返った参加者の皆さんに力を得て、気も新たに第103回を迎えました。肺疾患に興味をもつ若い内科医、外科医が続いてくれるのは心強い限りです。現在までその日の症例提示は主として内科・外科のどちらかに片寄るので、外科の時には内科の先生が敬遠するといふことがあるようです。しかし肺の疾患は外科も内科もお互いが判っているのが理想的なので、この会の課題も「肺疾患検討会」とした次第です。

むしろすすんで内科医は外科からの提示症例をみてほしいと希っています。外科医は内科の症例を…。

第103回 平成14年5月28日

横須賀共済病院胸部外科

- ①化学療法が奏功して摘出可能となったパンコースト肺癌。
- ②左全摘となった左主気管支からポリープ状に出た扁平上皮癌。
- ③横行結腸癌後のリンパ装置と両肺腫瘍影が各々に肉芽腫であった1例。

第104回 平成14年9月24日

県立循環器呼吸器病センター 内科・外科

肺癌例と非癌例とのCT像の比較検討で10例を提示。

第105回 平成14年11月26日

県立循環器呼吸器病センター 内科・外科

- ①肺放線菌症
- ②硬化性血管腫
- ③粘液腫
- ④プラズマ細胞肉芽腫
- ⑤非定型抗酸菌症
- ⑥肺結核症

(上記いずれも腫瘍を形成したもので鑑別はかなりむずかしい症例であった)

第106回 平成15年2月4日

市大センター病院総合外科

- ①化、放療法が奏功した未分化癌、扁平上皮癌の各1例
- ②Liposarcoma(経過が長く再発を繰り返した)
- ③化療が奏功して摘除できた前縦隔腫瘍
(Germcelltumor)
- ④Sarcoidosis(縦隔鏡にて診断)

(事務局・井出 研)

神奈川微小肺がん研究会

本会はヘリカルCTによる肺検診に携わる人たちが交流を深め、その撮影条件や読影基準の統一を図るため、平成12年3月に発足した。

肺がん検診におけるCTの役割は、近年その認知度重要度を高めており、当研究会はその最先端の研究を行ってきたといえる。

現在は研究集会を年4回開催している。活動内容としては、各会員がフィルムを持ち寄り、症例検討を行なう形式を取っている。結果の出ている症例を使用しての検討や、疑問陰影の判定検討、希少なケースの肺がん症例の検討等を行なっている。

第6回以降は、上記のほかに、30分～1時間ほどの教育講演も組み込んでいる。講演内容は肺がんのみにこだわらず、肺の疾患や機器装置の精度管理などを取り上げ、その方面に精通しておられる先生を講師としてお招きしている。

教育講演は今後も継続していく予定で、症例検討とともに本会がますます発展していくことを目指している。

最近の活動状況

第14回 神奈川微小肺がん研究会

研究集会

日時 平成15年6月12日

会場 神奈川県予防医学協会2階役員室

内容 症例検討

教育講演「アレルギー所見について」

聖マリアンナ医科大学横浜西部病院

呼吸器内科 駒瀬 裕子先生

役員 (敬称略・五十音順)

顧問	金子 昌弘	国立がんセンター
代表	田中 利彦	神奈川県予防医学協会
幹事	井出 研	神奈川県予防医学協会
	小田切繁樹	県立循環器呼吸器病センター
	櫛橋 民生	横浜市北部病院(昭和大学)
	駒瀬 裕子	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
	佐藤 雅史	日本医科大学附属第二病院放射線科
	庄司 晃	横浜市立大学附属病院(福浦)第一内科
	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学
	萩原 明	神奈川県予防医学協会
	松崎 稔	神奈川県予防医学協会
	三浦博太郎	横須賀共済病院
	宮沢 直人	平塚共済病院 外科・呼吸器外科
	山田 耕三	県立がんセンター

(事務局・香西 宏信)

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する(社)日本作業環境測定協会会員により設立され、本年度20年を迎えた。

現在、神奈川支部の会員は、自社5、機関30、指定1、委託2、の計38会員である。神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成14年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

- | | | | |
|------|-----|-----------|-----|
| ①総 会 | 1 回 | ③機関部会全体集会 | 1 回 |
| ②理事会 | 3 回 | ④技術専門委員会 | 7 回 |

事 業

I. 第16回作業環境測定推進大会(14. 9. 25)

I 特別講演「平成14年度の労働衛生行政の方針について」

神奈川労働局労働衛生課長 蒲谷 竹美

II 講演「事業場における化学物質管理」

(1)リスクアセスメントの概要

麻布大学 環境保健学部教授 中明 賢二

(2)リスク評価のための測定手法

1. 個人曝露濃度の測定

予防医学協会 戸田 敦夫

2. 尿中代謝物の測定

予防医学協会 石渡 和男

III リフレッシュ体操

II. 技術研修会

(1)第1回技術研修会(14. 6. 7)

講演 化学物質の生体影響

エチレンオキシド・ホルムアルデヒド等

北里大学医学部衛生学公衆衛生学教授

相澤 好治

(2)第2回技術研修会(15. 1. 31)

施設見学会：(株)ガステック 本社／工場

(3)第3回技術研修会(15. 3. 25)

【特別講演】

「粒径分布に着目した粉じんの作業環境管理」

独立行政法人産業医学総合研究所 本間 克典

【一般講演】

I エチレンオキシドの測定事例

(助)神奈川県労働衛生福祉協会 竹平 知義

II 室内環境汚染物質の分析

(株)ゼオン分析センター 斉藤 純

III 最近の労働衛生行政の動向

神奈川労働局労働衛生専門官 炭竈 徹夫

III. 講習会

(1)作業環境測定士試験科目一部免除講習会

(14. 5. 17)

役員・技術専門委員

役員	技術専門委員
支 部 長	渡辺 和夫 灰塚 正隆(オオスミ)
副支部長	田中 直 岸 康博(日産自動車)
	蒔田 道則 竹平 知義(県労働衛生福祉協会)
運営委員	松井英三郎 竹内猪佐夫(関東菱重興産)
"	井出 正 井出 正(ゼオン分析センター)
"	井上 温 椎野 恭司(日本ビクター)
"	井澤 方宏 芦田 敏文(県予防医学協会)
監 事	望月 明彦 望月 速人(山梨労働衛生センター)
"	益田 豊記 布川 典永(NKK)
行 政	藤川 行江 高橋 宏幸(神奈川労働基準局)
	(事務局・芦田 敏文)

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足26年目。各地区医師会、行政、大学医学部、病院、学校、検診機関が相互に連携し、地道な腎疾患対策を行い、児童生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理除外となった者に対する追跡調査。
2. 学校現場と医療分野の連携を図るため、情報交換の会を実施した。
3. 全身性かつ多臓器疾患に伴う腎障害の検討。

II 総会および研究会

平成14年9月7日(土) 会場：松村・ガーデンホール
講演「健康者と向き合う医療」
講師 県立栄養短期大学学長 鈴木 忠義先生

III 医師部会研究会

1. 第32回研究会
平成14年7月13日(土) 会場 神奈川県予防医学協会
テーマ「尿試験紙及び尿沈渣検査の標準化について」
ー日本臨床検査標準協議会(JCCLS)のガイドラインの紹介ー
講師 予防医学協会理事・検査部長 青木 芳和
2. 第33回研究会
平成14年12月7日(土) 会場 神奈川県予防医学協会
テーマ
「尿中酵素及び尿中低分子蛋白質の経時的測定による腎機能の傾向予測」ー慢性腎不全例での検討
講師 予防医学協会臨床検査科 渡辺 和子

IV 知識普及活動

1. 機関誌「じん」発刊23・24合併号(2,500部)
2. 腎臓手帳
800冊販売
3. ホームページ開設
(URL<http://www.shouni-in.jp/>)

役 員

(順不同・敬称略)

会 長	酒井 糾	小児腎疾患総合管理研究所所長
会長代行	小坂橋 靖	聖マリアンナ医科大学小児科教授
名誉幹事	青山 松次	鳥海病院
〃	水原 春郎	聖マリアンナ医科大学名誉教授
〃	山田 卓男	横浜市医師会
幹 事	青木 芳和	神奈川県予防医学協会検査第一部長
〃	飯高喜久雄	大和市立病院副院長
〃	石館 武夫	北里研究所メディカルセンター病院院長
〃	生駒 雅昭	聖マリアンナ医科大学小児科
〃	五十嵐すみ子	
〃	市川 家國	東海大学医学部小児科教授
〃	梅村 敏	横浜市立大学医学部内科学第二講座教授
〃	奥平 昌彦	
〃	忍田 源一	忍田内科医院
〃	佐々木悦子	神奈川県教育庁教育部保健体育課長
〃	河西 紀昭	相模野病院院長
〃	川田 征一	東神クリニック
〃	川島 令子	横浜市立岩崎中学校
〃	神山 務	かみやま小児科クリニック
〃	木内 豊治	木内医院
〃	小島 幸司	小島小児科医院
〃	佐藤 忠章	厚木子供クリニック
〃	佐藤千恵子	川崎市四谷小学校養護教諭
〃	富永 孝	神奈川県医師会学校保健担当理事
〃	鈴木 忠義	神奈川県立栄養短期大学学長
〃	竹中 道子	
〃	高橋 久男	相模中央クリニック
〃	高橋 英彦	神奈川県立こども医療センター腎内科
〃	塚本 信之	塚本医院
〃	寺島 和光	神奈川県立こども医療センター泌尿器科部長
〃	豊田 博史	豊田クリニック
〃	長坂 裕博	横浜市アレルギーセンター診療担当部長
〃	長洲 堯雄	長洲クリニック
〃	中沢 明紀	神奈川県衛生部保健予防課長
〃	中務 紀	なかむ小児科医院
〃	内藤 佳次	神奈川県予防医学協会中央診療所部長
〃	比留川 勝	比留川医院
〃	中野 猛夫	中野小児科医院
〃	新村 文男	東海大学病院小児科講師
〃	藤原 芳人	ふじわら小児科
〃	松浦 信夫	北里大学医学部小児科教授
〃	三井 榮枝	柄沢クリニック
〃	山口 京子	川崎市教育委員会勤労課健康相談室
〃	青木 律子	神奈川県立神奈川工業高校
〃	柳川 莊一郎	柳川ビルクリニック
〃	由井 史樹	由井クリニック
〃	横田 俊平	横浜市立大学医学部小児科教授
監 事	板坂 健治	横浜市教育委員会学校保健課長
〃	花井 弘次	川崎市教育委員会健康教育課長

(H15.5.27現在)
(事務局・熊沢 英明)

禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議

健康被害の明白なリスクファクターである喫煙に対する関心の高まる中で禁煙、分煙指導は呼吸器疾患、循環器疾患、発がん予防などの観点から、極めて重要な課題となっている。

「健康日本21」の目標では2010年までに、未成年者の喫煙率を0%に、喫煙が及ぼす健康被害や公共の場、職場における分煙の徹底をあげている。

さらに、15年5月より施行の「健康増進法」では、受動喫煙の防止が大きな課題となり、公共の場所での禁煙・分煙の機運は急速な高まりをみせてきている。

このような状況の中で、平成11年11月5日設立発足した「禁煙・分煙活動を推進する神奈川会議」は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

活動内容

- 1 禁煙教室、禁煙セミナーの企画・実施
- 2 講師の派遣
- 3 世界禁煙デー関連事業の開催
- 4 指導者講習会・研究会の開催
- 5 指導者教材の作成・整備
- 6 禁煙外来、指導を行っている医療機関等の情報収集・提供等。

1年間の活動

- 1 禁煙講演会・禁煙セミナー・推進大会等開催状況

(1) 高校生	8校	2,310名
(2) 県民関係	2回	60名
(3) 指導者講習会	1回	135名
(4) フォーラム	1回	185名
(5) その他	1回	158名
- 2 イベント参加

(1) 健康生活展 参加者	194名
(2) 関連会議参加	2回

役員(理事会)の構成

(15年7月1日現在)

会 長 中山 脩郎(神奈川県内科医学会長)
 副会長 渡辺古志郎(横浜市民病院副病院長)
 理 事 23名(医師、歯科医師、薬剤師、看護婦、マスコミ、産業、教育等)
 計 報 五島雄一郎前会長(15年5月28日死去)
 (事務局・栗原 博)

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が、自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例研究会、夏期講習会などを実施している。

1. 月例会

日時、テーマ、講師、参加者数

- ①4月20日「スクイグル法」杉浦京子・日本医科大学心理学助教授・16人 ②5月18日「コラージュ療法」杉浦京子・日本医科大学心理学助教授・17人 ③6月15日「ワルテック描画テスト」杉浦京子・日本医科大学心理学助教授・13人 ④7月13日「芸術療法」関則雄・長谷川病院・21人 ⑤9月21日「子どもに見られる生活習慣病」入交昭一郎・川崎市教育委員会医師・29名 ⑥10月19日「子どもの心とからだの問題」斎藤富美子・さいとう小児科院長・32人 ⑦11月16日「問題で苦しまず解決の扉を開こう」江花昭一・横浜労災病院医師・35人 ⑧12月7日「子どもの力を信じて」金井剛・横浜市中心中央児童相談所医師・22人 ⑨2003年1月18日「教育現場に役立つブリーフセラピー」小林強・京華商業高校・22人 ⑩2月15日「ギャングエイジは大事な発達段階」宮本まき子・家族カウンセラー・23人 ⑪3月26日「日本科学未来館・施設見学」8人

2. 第33回夏期講習会

日時：平成14年8月19日～21日

テーマ：「いのちを生きる」一心とこころの響きあい

- ①19日「不登校」村尾泰弘・立正大学助教授、「今日を生きる子ども」小倉清・クリニックおぐら院長
 ②20日「性教育」谷口雅子・元川崎市立川崎総合高校、「PTSD」山崎晃資・東海大学医学部精神科教授
 ③21日「交流分析」杉田峰康・福岡県立大学名誉教授
 参加状況：のべ489名

会員状況(平成14年度)

小学校37名、中学校18名、高等学校23名、一般24名。計102名。

役 員

(順不同・敬称略、平成15年3月31日現在)

会 長	山口 京子	川崎市教育委員会健康相談室
副会長	藤沢 恵子	横浜市立中村養護学校
幹 事	小川 初代	前横浜市立平沼小学校
	佐藤まゆみ	神奈川県立川和高等学校
	森田由美子	川崎市立住吉小学校
	鈴木 晴美	横浜市立相武山小学校
	佐藤千恵子	川崎市立四谷小学校
	後藤 禮子	川崎市立久本小学校
	原 久子	川崎市立戸手小学校
	浅井 恵子	私立横浜中学校
監 事	坂井 悦子	横浜市立高田小学校
	中川 優子	藤沢市立片瀬中学校

(事務局・百武正嗣)